

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

卒業・修了、おめでとうございます

新型コロナウイルス感染症対策で、本日の卒業式は卒業生とその保護者、職員のみで、時間等も短縮して行います。令和初、校訓制定後初の記念すべき卒業式です。新型コロナ禍も加わり、忘れがたい卒業式となりました。卒業生82名の、それぞれの進学先での活躍を祈念しています。また、現段階では、24日の修了式・離任式も短縮実施の予定です。1～5年生のこれまでの頑張りにも、温かい言葉をかけてあげたいと思っています。

学校再開及び感染症対策等

現段階では、3月24日（火）に修了式を行い、春休み明けの、4月6日（月）始業式、4月8日（水）入学式から学校再開と考えています。今後の新型コロナウイルス感染症の状況による変更も考えられますので、「はなまる連絡帳」のメールや学校ホームページによりご確認ください。また、手洗い・うがい・換気・特にせきやくしゃみがでる時のマスク着用等の感染症対策、栄養・睡眠・感染に配慮しながらの適度な運動（人が密集しない場所でのジョギング、散歩、縄跳び等）などの健康保持への心がけもお願いいたします。

校訓の「熱い想い」について考えたこと

児童には、「熱い想い」を込めて様々なことに挑戦し、希望へ向かってはばたいてほしいと願っています。それぞれに「熱い想い」に込める内容は違っていると思います。ただ漠然と生きていくのではなく、集中し、熱中し、かつ、想いを実現するための方策や戦略を俯瞰的に見渡しながら、未来へ向けて頑張ることを期待しています。子どもたちの未来にわくわくする思いがします。そして、いつしか、校訓や校歌を思い出しながら小学校時代をなつかしく振り返ってほしいと思っています。

### 祇園歴史の旅（その59）「観光都市を目指して」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「平和商港建設と同時に、戦後の佐世保の重要な目標となったのが、観光都市の建設でした。そこで、中田正輔市長は観光の要とするため、九十九島、平戸、五島列島を含む地域を国立公園に指定しようと運動を始めました。初めは誰も相手にしませんでした。中田市長の熱心な運動は、やがて県や周りの市町村を動かし、1950年（昭和25）には西海国立公園指定期成会が結成されました。市でも京都大学から調査団を招いて、予定地域全体の地理、歴史、風俗、産業、生物、地質の総合学術調査を行い、この報告書をもとに、一層熱心な運動を展開しました。さらに、鹿子前や弓張岳、石岳などに観光施設を整備し、PRにも力を入れました。こうした努力が実り、1955年（昭和30）3月16日、政府の正式な発表により、18番目の国立公園として西海国立公園が誕生しました。

その後、佐世保市では俵ヶ浦半島の展海峰公園や石岳展望台、船越展望台を整備し、1994年（平成6）には西海パールシーセンターがオープンするなど、西海国立公園、特に九十九島を活かした観光開発を進めています。2002年（平成14）に就航した新遊覧船パールクイーン号をはじめ、九十九島遊覧船は年間約30万人（平成24年）が利用しており、九十九島は佐世保の大きな観光資源となっています。これからは、この美しい自然を観光資源として活かしながらも、損なうことなく未来に残していくための努力が求められています。」（終わり）

今回は、「〇周年（開校年度）の祇園小とその時代」と題して、開校年度の祇園小学校の出来事や平成13年4月～14年3月までの日本内外の主な出来事などをご紹介します…。